

**Biz Box ルータ「RXT1210」
ファームウェアリリースノート
Rev. 14. 01. 20**

Biz Box ルータ「RXT1210」 Rev. 14. 01. 14 からの変更点

以下の通り機能追加、機能改善が行われました。

Revision : 14. 01. 20

Rev. 14. 01. 20 リリースノート

■脆弱性対応

[1] OpenSSL の以下の脆弱性対応を行った。

- CVE-2016-2108
- CVE-2016-2183 (JPCERT/CC JVN#98667810)
- CVE-2016-6306 (JPCERT/CC JVN#98667810)

■機能追加

[1] TCP ウィンドウ・スケール・オプションをコマンドで変更できるようにした。

○TCP ウィンドウ・スケール・オプションを変更する

[書式]

```
ip INTERFACE tcp window-scale SWITCH
ip pp tcp window-scale SWITCH
ip tunnel tcp window-scale SWITCH
no ip INTERFACE tcp window-scale [SWITCH]
no ip pp tcp window-scale [SWITCH]
no ip tunnel tcp window-scale [SWITCH]
```

[設定値及び初期値]

INTERFACE

[設定値] : LAN インターフェース名、WAN インターフェース名

[初期値] : -

SWITCH

[設定値] :

設定値	説明
-----	----

off	何もしない
remove	TCP ウィンドウ・スケール・オプションを削除する

[初期値] : off

[説明]

インターフェースを通過する TCP パケットのウィンドウ・スケール・オプションを強制的に変更する。

remove を指定すると、ウィンドウ・スケール・オプション が有効になっていた場合には、無効にして転送する。

○TCP ウィンドウ・スケール・オプションを変更する

[書式]

```
ipv6 INTERFACE tcp window-scale SWITCH
ipv6 pp tcp window-scale SWITCH
ipv6 tunnel tcp window-scale SWITCH
no ipv6 INTERFACE tcp window-scale [SWITCH]
no ipv6 pp tcp window-scale [SWITCH]
no ipv6 tunnel tcp window-scale [SWITCH]
```

[設定値及び初期値]

INTERFACE

[設定値] : LAN インターフェース名、WAN インターフェース名

[初期値] : -

SWITCH

[設定値] :

設定値	説明
off	何もしない
remove	TCP ウィンドウ・スケール・オプションを削除する

[初期値] : off

[説明]

インターフェースを通過する TCP パケットのウィンドウ・スケール・オプションを強制的に変更する。

remove を指定すると、ウィンドウ・スケール・オプション が有効になっていた場合には、無効にして転送する。

[2] NGN 網を介したリナンバリング発生時に LAN インターフェースを一時的にリンクダウンするか否かを設定するコマンドを追加した。

○NGN 網を介したリナンバリング発生時に LAN インターフェースを一時的にリンクダウンするか否かの設定

[書式]

```
ngn renumbering link-refresh SWITCH
no ngn renumbering link-refresh [SWITCH]
```

[設定値及び初期値]

SWITCH

[設定値] :

設定値	説明
on	リナンバリング発生時、LAN インターフェースを一時的にリンクダウンする
off	リナンバリング発生時、取得したプレフィックスに変更がない場合は、LAN インターフェースをリンクダウンしない

[初期値] : on

[説明]

NGN 網を介したリナンバリングが発生した時、LAN インターフェースを一時的にリンクダウンするか否かを設定する。

LAN インターフェースを一時的にリンクダウンさせることにより、DHCPv6-PD/RA プロキシの配下のより多くの端末に対して、IPv4/IPv6 アドレスの再取得を促し、リナンバリング後も通信を継続できるようにする。

このコマンドを on に設定した場合は、NGN 網を介したリナンバリングの発生時、取得したプレフィックスに変更がないときでも LAN インターフェースを一時的にリンクダウンする。off に設定した場合は、取得したプレフィックスに変更がないときはリンクダウンしない。

[3] L2MS で、以下の機器に対応した。

- WLX402

- SWX2100-5PoE
- SWX2100-10PoE
- SWX2100-24G

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/swctl/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[4] マルチポイントトンネル機能に対応した。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/multipoint-tunnel/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[5] L2MS について、以下の拡張を行った。

- スレーブの最大管理台数を 32 台から 64 台に拡張した。
- 自機を L2MS のスレーブとして動作できるようにした。
- ブリッジインターフェースで L2MS を有効にすることができるようにした。
- 上記ブリッジインターフェースの対応にともない、Web GUI の LAN マップで L2VPN の対向拠点を表示できるようにした。

- L2MS

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/swctl/index.html>

- LAN マップ機能

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/lanmap/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[6] YNO エージェント機能で、LAN マップのアラームに対応した。

LAN の接続状態がスナップショットと異なる状態になると、アラームが通知される。

[7] モバイルインターネット機能で、以下のデータ通信端末に対応した。

- au Speed USB STICK U03 (モデムモード)

[8] Amazon VPC との VPN 接続設定機能に対応した。

http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/cloud_vpn/amazon-vpc_api.html

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[9] IKEv1 メインモードでの NAT トラバーサルに対応した。

また、NAT トラバーサルを使用するとき、`ipsec ike nat-traversal` コマンドで、Internet Draft および RFC に準拠する動作になるオプションを指定できるようにした。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/ipsec/nat-traversal.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[10] IPIP トンネリングで、トンネル端点の FQDN 指定と IPIP キープアライブに対応した。また、IPIP トンネリングで自分側と相手側のトンネル端点をそれぞれ個別に指定する以下のコマンドを追加した。

- `tunnel endpoint local address`
- `tunnel endpoint remote address`

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/ipip/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[11] Web GUI のかんたん設定に、以下の設定ページを追加した。

- [VPN]-[クラウド接続]
- [VPN]-[拠点間接続]にデータコネクタ接続に関する設定ページ

[12] Web GUI のダッシュボードに、以下のガジェットを追加した。

- URL のキーワードチェック統計

[13] Web GUI のかんたん設定の [VPN]-[拠点間接続]-[IPIP に関する設定] で、以下の機能に対応した。

- 接続先のホスト名指定
- IPIP キープアライブ

[14] Web GUI の詳細設定に、以下の設定ページを追加した。

- [プロバイダー接続]
- [セキュリティ]-[URL フィルター]
- [セキュリティ]-[不正アクセス検知]

[15] Web GUI の詳細設定の [メール通知] で、通知内容の選択肢に不正アクセス検知を追加した。

[16] Web GUI の管理に、以下の設定ページを追加した。

- [アクセス管理]-[各種サーバーの設定]
 - [外部デバイス連携]-[USB / microSD]
 - [本体の設定]-[DOWNLOAD ボタンの設定]
- これに伴い、[管理]-[保守]-[ファームウェアの更新]-[ファームウェア更新の基本設定]の「ダウンロードボタンの使用」を削除した。

[17] Web GUI の画面上部に SYSLOG を表示するボタンを追加した。

[18] Web GUI で、ログインタイマーの残り時間に応じて以下のダイアログを表示するようにした。

- ログインタイマーの残り時間が少なくなったとき
残り時間の延長を促すダイアログ
- ログインタイマーが満了したとき
自動的にログアウトしたことを通知するダイアログ

■仕様変更

[1] YNO エージェント機能で、YNO マネージャーの GUI から実行できるコマンドを変更した。

以下のコマンドは、実行できない。

- administrator
- cold start
- exit
- less
- quit
- remote setup
- scp
- ssh
- telnet

[2] MLD 機能で、リンクローカルスコープのグループが格納されたレポートの送受信を行わないようにデフォルトの動作を変更した。また、従来の動作に戻すために ipv6 INTERFACE mld コマンドに report-link-local-group オプションを追加した。

[書式]

```
ipv6 INTERFACE mld TYPE [OPTION ...]
```

```

ipv6 pp mld TYPE [OPTION ...]
ipv6 tunnel mld TYPE [OPTION ...]
no ipv6 INTERFACE mld [TYPE [OPTION ...]]
no ipv6 pp mld [TYPE [OPTION ...]]
no ipv6 tunnel mld [TYPE [OPTION ...]]

```

[設定値及び初期値]

INTERFACE

[設定値] : LAN インターフェース名

[初期値] : -

TYPE : MLD の動作方式

[設定値] :

設定値	説明
off	MLD は動作しない
router	MLD ルーターとして動作する
host	MLD ホストとして動作する

[初期値] : off

OPTION : オプション

[設定値] :

version=VERSION

MLD のバージョン

設定値	説明
1	MLDv1
2	MLDv2
1,2	MLDv1 と MLDv2 の両方に対応する。 (MLDv1 互換モード)

syslog=SWITCH

詳細な情報を syslog に出力するか否か

設定値	説明
-----	----

on 表示する
off 表示しない

robust-variable=VALUE (1..10)

MLD で規定される Robust Variable の値を設定する。

report-link-local-group=SWITCH★

リンクローカルスコープのグループを処理するか否か

設定値	説明
-----	----

on	MLD ルーターとして動作しているとき、リンクローカルスコープのグループのレポート受信を有効にする MLD ホストとして動作しているとき、リンクローカルスコープのグループのレポート送信を有効にする
off	リンクローカルスコープのグループのレポート送受信を無効にする

[初期値] :

version=1,2
syslog=off
robust-variable=2
report-link-local-group=off★

[説明]

インターフェースにおける MLD の動作を設定します。

- [3] OSPF および BGP で、インターフェースの状態変化を検知したとき、複数の外部経路の反映処理をまとめて行うようにした。

○インターフェースの状態変化時、OSPF に外部経路を反映させる時間間隔の設定

[書式]

ospf reric interval TIME
no ospf reric interval [TIME]

[設定値及び初期値]

TIME

[設定値] : 秒数 (1 以上の数値)

[初期値] : 1

[説明]

ルーターのインターフェースの状態が変化するとき、OSPF に外部経路を反映させる時間の間隔を設定する。

OSPF ではインターフェースの状態変化を 1 秒間隔で監視し、変化があれば最新の外部経路を自身に反映させるが、インターフェースの状態変化が連続して発生するときは、複数の外部経路の反映処理が TIME で指定した秒数の間隔でまとめて行われるようになる。

[ノート]

複数のトンネルが一斉にアップすることがあるような環境では、本コマンドの値を適切に設定することで、OSPF や BGP の外部経路の導入によるシステムへの負荷を軽減することができる。

本コマンドの設定値は、BGP への外部経路の反映にも影響する。本コマンドと `bgp reric interval` コマンドの設定値が食い違う場合には、本コマンドが優先して適用される。

本コマンドの設定は、経路の変化や IP アドレスの変化に対する OSPF や BGP の動作には関係しない。

○インターフェースの状態変化時、BGP に外部経路を反映させる時間間隔の設定

[書式]

```
bgp reric interval TIME
no bgp reric interval [TIME]
```

[設定値及び初期値]

TIME
[設定値] : 秒数 (1 以上の数値)
[初期値] : 1

[説明]

ルーターのインターフェースの状態が変化するとき、BGP に外部経路を反映させる時間の間隔を設定する。

BGP ではインターフェースの状態変化を 1 秒間隔で監視し、変化があれば最新の外部経路を自身に反映させるが、インターフェースの状態変化が連続して発生するときは、複数の外部経路の反映処理が TIME で指定した秒数の間隔でまとめて行われるようになる。

[ノート]

複数のトンネルが一斉にアップすることがあるような環境では、本コマンドの値を適切に設定することで、OSPF や BGP の外部経路の導入によるシステムへの負荷を軽減することができる。

本コマンドの設定値は、OSPF への外部経路の反映にも影響する。本コマンドの設定値と ospf reric interval コマンドの設定値が食い違う場合には、ospf reric interval コマンドの設定値が優先して適用される。

- [4] データコネクト拠点間接続で設定するトンネルインターフェースの帯域幅の設定を細かく設定できるように変更した。

○NGN 網を介したトンネルインターフェースの帯域幅の設定

[書式]

```
tunnel ngn bandwidth BANDWIDTH [arrivepermit=SWITCH]
no tunnel ngn bandwidth [BANDWIDTH arrivepermit=SWITCH]
```

[設定値及び初期値]

BANDWIDTH

[設定値] : 帯域幅 (1k - 1000M)

[初期値] : 1m

SWITCH

[設定値] :

on ... 帯域の設定と一致しない着信も許可する

off ... 帯域の設定と一致した着信のみ許可する

[初期値] : on

[説明]

NGN 網を介したトンネルインターフェースの帯域幅を設定した値にする。

帯域の設定が一致しない着信について、arrivepermit オプションが off の場合は着信せず、on の場合は着信する。

[ノート]

通信中の変更は無効。

- [5] イーサネットフィルターの設定可能最大数を 100 から 512 に変更した。
- [6] TFTP で設定ファイルを書き込むとき、設定ファイルの最終行で末尾に改行コード (LF) が付加されていないコマンドも認識できるようにした。
- [7] モバイルインターネット機能で PP インターフェース接続を利用した場合に、Web GUI の以下のページで表示されるインターフェース名を変更した。
- かんたん設定の [ネットボランチ DNS]

- かんたん設定の[ネットボランチ DNS]-[ホストアドレスの設定]
- かんたん設定の[ネットボランチ DNS]-[入力内容の確認]
- 詳細設定の[NAT]
- 詳細設定の[NAT]-[インターフェースへの適用の設定]
- 詳細設定の[IP フィルター]
- 詳細設定の[IP フィルター]-[適用されている IP フィルターの一覧]

[8] 以下のコマンドで指定できるパラメーターを統一した。

- dns host
- httpd host
- sftpd host
- sntpd host
- sshd host
- telnetd host
- tftp host

パラメーターとして以下を指定することができる。

- IP アドレス
- IP アドレスの範囲指定
- 複数の IP アドレスを列挙
- 以下のキーワード
 - "lan"
 - "lanN" (※)
 - "wan1" (※)
 - "bridge1" (※)
 - "vlanN" (※)
 - "lanN/M" (※)
- 複数のインターフェース(上記※のキーワード)とホストを列挙
- any
- none

[9] NGN のリナンバリングで、DEBUG レベルの SYSLOG に出力されていた以下のログを、INFO レベルの SYSLOG に出力するようにした。

- [DHCPv6] Renumbering start インターフェース名
- [DHCPv6] Renumbering success インターフェース名
- [IPv6] Received renumbering signal インターフェース名

- [IPv6] Renumbering start インターフェース名
 - [IPv6] Renumbering success インターフェース名
- [10] DHCPv6 クライアント機能で、サーバーから RECONFIGURE メッセージを受信したときに、INFO レベルの SYSLOG に以下のログを出力するようにした。
- [DHCPv6] receive RECONFIGURE
- [11] 電源スイッチにより電源を落としたとき、シリアルコンソール上に以下のメッセージを出力するようにした。
- “Power switch was turned off.”
- ただし、ルーターの起動が完了していないときは出力されない。
- [12] Web GUI のプロバイダー接続設定ページで、PP インターフェースの IP アドレスの設定箇所に記載されている「フレッツ・VPN ワイド」に関する説明文を削除した。
- [13] Web GUI のプロバイダー接続設定ページで、PP インターフェースの IP アドレスの設定箇所で、新規設定時は「自動取得する」が選択されているようにした。
- [14] Web GUI の以下のページの表示内容を変更した。
- かんたん設定の[基本設定]-[LAN1 アドレス]-[IPv4 アドレスの設定]
 - かんたん設定の[基本設定]-[LAN1 アドレス]-[IPv4 アドレスの設定]-[入力内容の確認]
 - かんたん設定の[基本設定]-[LAN1 アドレス]-[IPv4 アドレスの設定]-[入力内容の確認]-[LAN1 アドレスに関連する設定の一括変更の詳細]
 - かんたん設定の[VPN]-[リモートアクセス]の入力内容の確認ページ
 - かんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]の入力内容の確認ページ
 - 管理の[本体の設定]
- [15] Web GUI のかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]の経路に関する設定ページで以下の変更を行った。
- 新規登録時の選択肢として「経路を設定しない」を追加した。
 - 設定変更時の選択肢として「設定を変更しない」を追加した。
 - 選択肢として「デフォルト経路」を追加した。
 - 既に設定済みの経路を宛先として指定できるようにした。
 - 接続先の LAN 側のアドレスのネットマスクに 1 bit と 32 bit を選択できるようにした。

[16] Web GUI のかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で IPsec の VPN 接続を新規に追加したときに、以下のコマンドを追加するようにした。

- ipsec ike local address GATEWAY_ID LAN1 インターフェースの IP アドレス

[17] Web GUI のかんたん設定の[基本設定]-[LAN アドレス]-[IPv4 アドレスの設定]、および詳細設定の[LAN]-[IPv4 アドレスの設定]で、LAN インターフェースの IP アドレスを変更するときに自動的に変更される IP アドレスの設定として、以下のコマンドを追加した。

- ipsec ike local address コマンドで設定する IPsec の自分側 IP アドレス

[18] Web GUI の以下のヘルプページの記述を変更した。

- 全般の[はじめに]
- ダッシュボードの[各ガジェットについて]の「トラフィック情報(LAN)」
- LAN マップの[LAN マップについて]の「3. 管理ユーザー/一般ユーザーでできることの違い」
- かんたん設定の[プロバイダ接続]の「1. 概要」

[19] Web GUI の切断コード表に以下の切断コードの説明を追記した。

- 1553 携帯端末からの応答がないためタイムアウトした。
- 1554 データ送信に失敗した。
- 1555 サポートしていない接続タイプが設定されている。

[20] netvolante-dns auto hostname コマンドで、OUI が“00:a0:de”以外のときは、「'y'+(MAC アドレス全 12 桁). auto. netvolante. jp」という形のホスト名が自動生成されるようにした。

[21] モバイルインターネット機能で、通信制限の累積期間として設定できる値の最大値を 604800 秒(7 日間)から 2592000 秒(30 日間)に変更した。

最大値が変更されたコマンドは以下の通りである。

- mobile access limit duration
- WAN access limit duration

[22] モバイルインターネット機能で、パケット通信量制限の初期値を 200000 バイトから 50M バイトに変更した。

初期値が変更されたコマンドは以下の通りである。

- mobile access limit length
- WAN access limit length

LENGTH、ALERT および ALERT_CANCEL パラメータの後ろに 'k' または 'M'、'G' をつけると、それぞれ k byte または M byte、G byte として扱われるようにした。バイト数は、1024 バイトが 1k として計算される。

パラメータの後ろに 'k' または 'M'、'G' をつけられるようにしたコマンドは以下の通りである。

- mobile access limit length
- WAN access limit length
- mobile access limit connection length
- WAN access limit connection length

[23] IPIP トンネリングと IP マスカレードを併用している状態で、IPIP トンネルのエンドポイントアドレスの設定を変更したとき、IPIP トンネリングに関連する動的 NAT エントリを消去するようにした。

[24] 全ノードマルチキャストアドレス (ff02::1)、および全ルーターマルチキャストアドレス (ff02::2) 宛に ping6 コマンドを実行したとき、ルーター自身も応答を返すようにした。

[25] 内蔵フラッシュ ROM への書き込み処理の信頼性を向上させた。

[26] Web GUI の LAN マップで、SWX2200 の機器名をデフォルトの機器名に戻せるようにした。

[27] Web GUI の LAN マップで、新しい機器が接続されたときは常にトポロジーの最下部に追加していたのを、当該機器の接続ポート番号やスナップショット機能による検出状態に応じた位置に挿入するようにした。

[28] Web GUI の LAN マップで、マスター配下の機器のポート番号を lanN:M の形式で表示するようにした。

[29] Web GUI の LAN マップのタグ VLAN ページに「表示の更新」ボタンを追加した。

[30] Web GUI の LAN マップの一覧マップについて、以下の変更を行った。

- トポロジー全体を表示しているときの経路名表示を「root」にした。

- マスター、およびスレーブのダウンリンクポートの表示位置を変更した。
- リンク速度が不明である場合、機器間の接続線を灰色で表示するようにした。
- マスター、スレーブ、および SSID の総数が 200 を超える場合、ミニ一覧マップを表示しないようにした。

[31] LAN マップで使用する OUI ファイルを更新した。

[32] Web GUI のかんたん設定の[プロバイダー接続]で、発信制限を解除できるようにした。

[33] Web GUI のかんたん設定の[プロバイダー接続]-[モバイル]の設定ページで、以下の変更を行った。

- 「発信規制」で、「制限する」を選択したときに設定される制限値を 200000 バイト/無期限から 50M バイト/30 日に変更した。
- 「発信規制」で、設定変更時の選択肢に「設定変更しない」を追加した。

[34] Web GUI のプロバイダー接続で、接続種別の判定条件を改良した。

[35] Web GUI のかんたん設定の[プロバイダー接続]で、プロバイダー接続の設定を変更するとき、設定項目と直接関係の無いコマンドの設定を変更しないようにした。

[36] Web GUI のかんたん設定の[プロバイダー接続]で、デフォルトゲートウェイの設定を変更したとき、同じゲートウェイが設定されている静的経路設定も変更するようにした。

[37] Web GUI の以下の箇所の表示内容を変更した。

- 画面右上の各種ボタン
- 詳細設定、管理で使用されている黒色のボタン
- かんたん設定の[プロバイダー接続]-[モバイル]
- 詳細設定の[ルーティング]-[静的ルーティングの設定]
- 詳細設定の[メール通知]
- 詳細設定の[メール通知]-[メール通知の設定]
- 詳細設定の[DNS サーバー]-[DNS サーバー機能の基本設定]
- 管理の[アクセス管理]-[ユーザーの設定]
- 管理の[保守]-[コマンドの実行]
- 管理の[保守]-[SYSLOG の管理]

[38] Web GUI の詳細設定の[NAT]-[NAT ディスクリプターの設定]について以下の変更を行った。

- 「変換方法」で「変換しない」を設定したときに `no nat descriptor type` コマンドを実行するようにした。
- 「外側アドレス」で「IPCP」を設定したときに `no nat descriptor address outer` コマンドを実行するようにした。
- 「内側アドレス」で「自動(auto)」を設定したときに `no nat descriptor address inner` コマンドを実行するようにした。

[39] Web GUI で以下の名称を変更した。

- LAN マップ
 - コントローラー → マスター
 - 端末マスター → 端末情報 DB
- モバイル
 - Mobile PP → モデム方式
 - Mobile WAN → イーサネット方式 (NDIS)

[40] Web GUI で表記のゆれを修正した。

[41] Web GUI のかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[経路に関する設定ページ]のヘルプページで、「接続先の LAN 側のアドレス」の最大設定数の記述を追加した。

[42] Web GUI の詳細設定、管理の画面左側のメニュー構成を変更した。

[43] Web GUI の詳細設定の[DNS サーバー]-[DNS サーバー機能の基本設定]の設定項目

「ホストのアクセス許可」について、以下の変更を行った。

- 「すべての LAN インターフェース」の選択肢を削除した。
- 複数のインターフェースを選択できるようにした。
- タグ VLAN インターフェースを選択できるようにした。
- ポート分割 VLAN インターフェースを選択できるようにした。

[44] Web GUI の詳細設定の[メール通知]-[メール通知の設定]で、設定を変更したとき、Web GUI で対応していないメール通知の種別の設定が削除されないようにした。

[45] Web GUI の詳細設定の[メール通知]で、一つのメールテンプレートに対し、同じ種別の `mail notify` コマンドが複数設定されているときでも[メール通知の設定一覧]の

通知内容欄に同じ種別が複数表示されないようにした。

■バグ修正

- [1] 通信量が多いとき、コンソール上に下記のエラーメッセージが表示され、その後ごく稀にリポートやハングアップが発生したり、ルーターの動作が不安定になったりすることがあるバグを修正した。

- Detected incomplete exclusive control (sem_id = 205)

Rev. 14. 01. 11 以降で発生する。

- [2] 不正なフォーマットの PPPoE パケットを受信したとき、リポートする可能性を排除した。

- [3] L2TPv3 を用いた L2VPN で、IEEE802.1Q タグが複数付加された L2 フレームを転送すると CPU 使用率が 100% になり、その後リポートするバグを修正した。

- [4] ブリッジインターフェースを端点として接続が確立した L2TPv3 で、以下の条件を満たす宛先に対して転送しようとしたフレームがフラグメントされたとき、リポートするバグを修正した。

- ブリッジインターフェースに収容されたトンネルインターフェースの先にある
- ブリッジのラーニングテーブルに存在しない

- [5] 以下のコマンドを追加または削除したとき、リポートすることがあるバグを修正した。

- ipsec transport
- ipsec transport template

Rev. 14. 01. 09 以降で発生する。

- [6] ひかり電話契約ありの NGN 回線で、NGN のリナンバリングが発生し、処理が完了したときにリポートしたりハングアップしたりする可能性を排除した。

- [7] dhcp scope bind コマンドが設定されているときに dhcp server rfc2131 compliant コマンドを off あるいは use-clientid 機能を使用しない設定にするとリポートする可能性を排除した。

- [8] `no nat descriptor masquerade session limit` コマンドを実行すると、リポートする可能性があったバグを修正した。
- [9] 大量の文字列が連続してシリアルコンソールに出力されているとき、`set-serial-baudrate` コマンドの設定を変更するとリポートすることがあるバグを修正した。
- [10] Web GUI 閲覧時にブラウザの更新を連続して行くと、リポートやハングアップすることがあるバグを修正した。
- [11] LAN マップのメール通知機能で、メールの送信中に LAN マップやスナップショット機能を無効にしたとき、リポートすることがあるバグを修正した。
- [12] PPTP で、接続の確立に失敗したときにメモリーリークが発生することがあるバグを修正した。
- [13] 設定の保存に失敗したときメモリーリークすることがあるバグを修正した。
- [14] YNO エージェント機能で、ループを検出してアラームを通知した状態で YNO エージェント機能が再起動されると、その後ループのアラームの解除や通知ができなくなるバグを修正した。
- 以下の場合に YNO エージェント機能が再起動する。
- 以下のコマンドを実行したとき
 - `description yno`
 - `yno access code`
 - `yno log`
 - `yno use` コマンドにより、YNO エージェント機能を一旦停止し再度起動したとき
- なお、電源投入やルーターの再起動による YNO エージェント機能の再起動時には本バグは発生しない。
- [15] YNO エージェント機能で、CONFIG の即時反映の実行要求に対する返答を YNO マネージャーへ通知できないバグを修正した。
- [16] YNO エージェント機能で、起動直後に YNO マネージャーからルーターの機器詳細ページを表示すると、以下について意図しない値を送信する可能性を排除した。

- Running config と Startup config に差分があるか否か
- Backup 関連の状態変更検知日時
- 常時接続トンネルの状態変更日時
- 常時接続回線の状態変更日時

[17] YNO マネージャーの以下のページからコマンドを実行し、YNO エージェントで設定が保存されるとき、実行中の設定ファイルで使用されているコメントが保存されないバグを修正した。

- 「機器管理」 - 「機器一覧」 のコマンド実行のページ

[18] YNO エージェント機能で、YNO マネージャーからコマンドを実行すると、出力結果の末尾にプロンプト表示が混入するバグを修正した。

[19] YNO エージェント機能で、一旦アラームが通知されると、機能を無効にしてもアラーム通知時のログが出力されるバグを修正した。

[20] YNO エージェント機能で、アラームが YNO マネージャーに通知される前に解消されると、以下のログが出力されるバグを修正した。

- [YNO AGENT] internal warning (alarm, XXXX) ※XXXX は数字

[21] モバイルインターネット機能で、モバイル端末のアタッチ処理中に端末をデタッチさせると、以後の端末のアタッチが正しくできなくなることがあるバグを修正した。

[22] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で、モバイル端末からの自動発信処理が行なわれないことがあるバグを修正した。

[23] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で、ネットワークアドレスが同一のネットワークとの通信ができないバグを修正した。

Rev. 14. 01. 11 で発生する。

[24] モバイルインターネット機能で、通信制限の累積期間が経過しても制限が解除されないことがあるバグを修正した。

[25] モバイルインターネット機能で、disconnect コマンドを連続して実行すると、ブザーが複数回鳴動することがあるバグを修正した。

- [26] モバイルインターネット機能で、PP インターフェース接続にて docomo L-03F を利用したときに、切断時の切断理由が正しくないことがあるバグを修正した。
- [27] モバイルインターネット機能で、show status wan1 コマンドで表示される送信パケット数、累積送信パケット数および送信廃棄パケット数が正しくないことがあるバグを修正した。
- [28] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で、wan1 always-on on コマンドを設定しているとき、回線の切断状態を検出しても STATUS LED が点灯しないバグを修正した。
- [29] モバイルインターネット機能で、show status usbhost コマンドで表示される自局番号や IMEI が不正な値になる可能性を排除した。
- [30] モバイルインターネット機能の WAN インターフェース接続で、発呼のときに“IP Commencing~”のログが出力されないことがあるバグを修正した。
- [31] データコネクト拠点間接続において、ファストパスで送信するパケットの UDP ヘッダのチェックサムを計算していなかったバグを修正した。
- [32] L2TP/IPsec で不正な L2TP 制御パケットを受信すると、ANONYMOUS インターフェースが占有されてしまい、それ以降 ANONYMOUS インターフェースが使用できなくなるバグを修正した。
- [33] L2TP/IPsec および L2TPv3 を用いた L2VPN で、トンネルから受信した TCP パケットに対して ip tunnel tcp mss limit コマンドではなく ip pp tcp mss limit コマンドによる TCP セッションの MSS 制限が適用されていたバグを修正した。
- [34] OSPFv2 と BGP を併用するとき、ospf router id コマンドと bgp router id コマンドで同じルーターID が設定されていても、BGP が正常に起動しないバグを修正した。
- [35] PP/LAN バックアップ機能で、バックアップ切り替え時にバックアップ側への ping が通らないことがあるバグを修正した。
- [36] パケット転送フィルターを使って wan1 インターフェース宛にパケットを転送したと

きに、パケットを送信できないバグを修正した。

[37] インターフェースの IP アドレスが設定されたときに、優先度が低い経路については経路の再検索が行われず、経路情報が不正になるバグを修正した。

[38] MLD 機能で、MLD ルーターの MLDv1, v2 の互換モードとして動作しているとき、MLDv1 レポートを受信してグループ情報を登録し、一定時間そのグループ情報を含む MLDv1 レポート受信しなかった場合に、そのグループのエントリーがタイムアウトしなくなるバグを修正した。

[39] RTFS 領域にファイルアクセスしているときに設定を保存しようとする、設定の保存に失敗し、それ以降設定を保存できなくなることがあるバグを修正した。

[40] NGN のリナンバリングに関するログの誤記を修正した。

[41] dhcp duplicate check コマンドで 2 つめのパラメーターを入力せずに設定しようとしたときに、エラーメッセージが正しくないバグを修正した。

[42] show status external-memory コマンドを実行した時に統計情報設定の項目が表示されるバグを修正した。

[43] tunnel ngn interface コマンドで不正なパラメーターが入力できるバグを修正した。

[44] 以下のコマンドのコマンドヘルプの誤記を修正した。

- clear url filter
- dhcp scope
- mobile arrive use
- show status qos
- show url filter
- url INTERFACE filter

[45] Web GUI の以下のページで、送受信パケット数やエラーパケット数が負数で表示されることがあるバグを修正した。

- ダッシュボードのインターフェース情報ガジェット
- ダッシュボードのインターフェース情報ガジェットのツールチップ
- ダッシュボードの VPN 接続状態ガジェットのツールチップ

- LAN マップの機器詳細ビューのポートフレームカウンタ

- [46] タグ VLAN インターフェースにアドレスが設定されているとき、Web GUI のダッシュボードのトラフィック情報(LAN) ガジェットでインターフェース選択にタグ VLAN インターフェースが選択できるバグを修正した。

- [47] モバイルインターネット機能を利用しているときの、プロバイダー接続状態ガジェットのツールチップの送受信情報に誤った値が表示されるバグを修正した。

- [48] モバイルインターネット機能でエラーが発生したとき、かんたん設定ページのダッシュボードのプロバイダー接続状態ガジェットで、警告表示が正しく表示されないことがあるバグを修正した。

- [49] LAN マップで、同じ経路のスレーブが複数存在するとき、マップページや一覧マップページの表示が崩れたり、スナップショット機能が正常に動作しなくなることがあるバグを修正した。

- [50] LAN マップで、マップページを表示した後にスレーブを検出したとき、そのスレーブに接続された端末がツリービューや機器一覧ページに表示されないバグを修正した。

- [51] 複数のインターフェースで LAN マップを有効にしているとき、機器一覧ページでスレーブに接続されている端末が表示されないバグを修正した。

- [52] LAN マップから WLX202 の IP アドレスの設定をするとき、サブネットマスクが空欄の状態を設定できてしまうバグを修正した。

- [53] LAN マップで、スレーブとしてヤマハ無線 AP が 24 台以上接続されているとき、ヤマハ無線 AP のコンフィグの一括保存、または一括復元を行うと、エラーメッセージが表示されるバグを修正した。

- [54] LAN マップのメール通知機能で、mail template コマンドの Content-Type が us-ascii であるときに送信されるメール本文の誤記を修正した。

- [55] Web GUI の以下のページで、インターフェースの IP アドレスがタグ VLAN、ポートベース VLAN、LOOPBACK インターフェースの IP アドレスと重複して設定できてしまうバグを修正した。

- かんたん設定の[基本設定]-[LAN1 アドレスの設定]-[IPv4 アドレスの設定]
- 詳細設定の[LAN]-[IPv4 アドレスの設定]

[56] デフォルト経路にトンネルインターフェースが指定されているとき、Web GUI のかんたん設定の[プロバイダー接続]でプロバイダー情報が表示されないバグを修正した。

[57] デフォルト経路に同一ゲートウェイが複数設定されているとき、Web GUI の以下のページでプロバイダーが複数個表示されるバグを修正した。

- かんたん設定の[プロバイダー接続]
- かんたん設定の[ネットボランチ DNS]のホストアドレスの設定ページ

[58] Web GUI のかんたん設定の[プロバイダー接続]で、モバイル端末がアタッチされていないときに、Mobile PP 接続の接続状態がエラーにならないバグを修正した。

[59] Web GUI で、デフォルト経路に設定されていないプロバイダー接続に対して IPIP トンネルを設定できないバグを修正した。

[60] Web GUI のかんたん設定の[プロバイダー接続]で、以下のプロバイダーが接続中のとき、プロバイダーから割り当てられている IP アドレスにネットマスクが表示されることがあるバグを修正した。

- PPPoE 接続
- ISDN 接続
- モバイル PP 接続
- IPv6 PPPoE 接続

[61] Web GUI のかんたん設定の[プロバイダー接続]で、モバイルのアクセスポイント名の入力欄に#を入れると以降の文字列が設定されないバグを修正した。

[62] Web GUI のかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、以下の操作を行うと同一経路の設定も削除されてしまうバグを修正した。

- VPN 接続設定を削除する
- 経路に関する設定ページで、経路を削除する

[63] Web GUI のかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]-[IPsec]で、「接続先の ID」または「自分側の ID」に半角で 129 文字以上の文字列を設定した後、再度設定ページを開くと 128 文字しか表示されないバグを修正した。

- [64] Web GUI のかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、IPIP の「接続先の IP アドレス」に 0.0.0.0 を入力してもエラーにならず、登録できてしまうバグを修正した。
この状態で VPN のトップページを表示しても接続設定の一覧に IPIP が表示されなかった。
- [65] Web GUI のかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で IPIP を設定したとき、モバイル WAN インターフェースに対して静的 IP マスカレードと IP フィルターが設定されないバグを修正した。
- [66] Web GUI から LAN3 インターフェース経由でネットボランチ DNS の登録ができないバグを修正した。
- [67] Web GUI の詳細設定の[NAT]-[NAT ディスクリプターの設定]で、静的 NAT および静的 IP マスカレードを合計で約 200 エントリ以上設定すると、確認画面に遷移するときにエラーが表示されたりログアウトダイアログが表示されたりすることがあるバグを修正した。
- [68] Web GUI のヘルプの以下のページで誤記を修正し、説明を追加した。
- かんたん設定の[プロバイダー接続]
 - かんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]
 - かんたん設定の[VPN]-[リモートアクセス]
 - 詳細設定の[IP フィルター]
- [69] Web GUI の管理の[保守]-[ファームウェアの更新]からネットワーク経由でファームウェアの更新を選択し、[ファームウェアのリビジョンの確認]ダイアログで「中止」ボタンを押して更新をキャンセルした後、再びファームウェアの更新を実行すると、Web GUI がハングアップすることがあるバグを修正した。
- [70] Web GUI の管理の[保守]-[ファームウェアの更新]-[ファームウェア更新の基本設定]で、以下のバグを修正した。
- ダウンロード先の URL として 235 文字以上の名称を入力して設定の確定を行うと、設定される URL が 234 文字になる
 - 255 文字までしか設定できないダウンロード先の URL のテキストボックスが、256 文字まで入力できる

- [71] Web GUI の管理の[保守]-[CONFIG ファイルの管理]-[CONFIG ファイルのインポート]で、ヘルプボタンを押しても適切なヘルプページが表示されないバグを修正した。
- [72] モバイルインターネット機能で、データ通信端末へのデータまたはコマンドの送受信に失敗したとき、リポートすることがあるバグを修正した。
- [73] IPsec を用いたデータコネクト拠点間接続で、tunnel ngn fallback コマンドによる発信によって接続しているときに、tunnel ngn fallback コマンドを削除したり変更したりすると、切断時にリポートすることがあるバグを修正した。
- [74] 通信中に IPIP トンネルの設定を変更するとリポートすることがあるバグを修正した。
- [75] pp always-on コマンドが on に設定されている PP インターフェースが存在し、当該 PP インターフェースで自動接続の確立に失敗したとき、ごく稀にリポートすることがあるバグを修正した。
- [76] RIP を有効にしているとき、LAN バックアップのバックアップ先インターフェースに未設定の PP インターフェースを指定しておく、バックアップに切り替わるタイミングでリポートするバグを修正した。
- [77] IPsec の IKEv2 の認証で PKI 証明書を利用しているとき、IKE_AUTH 交換時および IKE SA 削除時にメモリーリークが発生することがあるバグを修正した。
- [78] tunnel backup コマンドでバックアップ先に LAN インターフェースを指定している場合、バックアップに切り替わる度にメモリーリークが発生するバグを修正した。
- [79] dhcp scope bind コマンドでクライアント ID を使用する設定を行ったあと、その設定を削除するとメモリーリークが発生するバグを修正した。
- [80] 以下のコマンドの設定を上書きするとメモリーリークが発生するバグを修正した。
- ipv6 INTERFACE ospf area
 - ipv6 pp ospf area
 - ipv6 tunnel ospf area
- [81] YNO エージェントからの CONFIG の変更、アラームの発生/解除の通知を YNO マネージャーが受信できなかったとき、それらの通知が YNO エージェントから再送されず、YNO

GUI で RunningConfig やアラームの状態が正しく表示されなくなるバグを修正した。

[82] ブリッジインターフェースを端点として接続が確立した L2TPv3 で、ブリッジのラーニングテーブルに存在しない宛先に対するパケットをトンネルの先に転送すると、不要なパケットが送信されるバグを修正した。

[83] ファストパスが有効の状態での IPIP トンネリングによる通信を行っているとき、`tunnel endpoint address` コマンドでトンネル端点のローカルアドレスを変更しても、設定変更前のローカルアドレスに従ってファストパスによる転送処理が実行されてしまうバグを修正した。

[84] NGN への接続で、DHCP の更新が発生したときに、DHCP により生成されたデフォルト経路が削除されることがあるバグを修正した。

通常はプロバイダー等を経由したインターネットへのデフォルト経路が静的に設定されているために通信に影響はない。

NGN 網を介した通信は、DHCP オプションで通知されている経路があるため、この問題が発生しても通信に影響はない。

[85] 同じネットワークに対する複数の経路が取り込まれた状態で、それらが同時に削除されるとき、OSPF や BGP で受信した経路がルーティングテーブルに残ることがあるバグを修正した。

[86] NAT/IP マスカレード機能で、FTP の PORT コマンドに記述される文字列が 001 や 099 のように 1~2 桁の数字が 3 文字で記述された場合に、ポート番号を間違った数値に書き換えてしまうバグを修正した。

[87] イーサネットフィルタ機能で DHCP 予約情報を使用しているとき、`dhcp scope bind` コマンドの TYPE オプションを `ethernet` から変更してもイーサネットフィルタが継続して動作してしまうバグを修正した。

[88] ある不正な DHCP サーバー機能に関する設定が入った状態でルーターを起動したとき、以降 DHCP サーバー機能が動作しないバグを修正した。

[89] 一度でもリンクアップしたことがあるブリッジインターフェースで、リンクダウン状態でも、`ip icmp echo-reply send-only-linkup` コマンドの設定にかかわらず ICMP

echo request に応答を返してしまうバグを修正した。

[90] bridge member コマンドのインターフェースが自動集約されないことがあるバグを修正した。

[91] ipv6 INTERFACE mld コマンドでパラメータチェックの不備を修正した。

[92] show command コマンドで以下のコマンドが表示されないバグを修正した。

- ipv6 INTERFACE address
- ipv6 INTERFACE dad retry count
- ipv6 INTERFACE prefix
- ipv6 INTERFACE prefix change log
- ipv6 INTERFACE secure filter

[93] 以下のコマンドヘルプの誤記を修正した。

- clear nat descriptor dynamic
- connect
- l2tp keepalive use
- switch control function get mirroring-dest
- switch control function get mirroring-use
- switch control function get status-fan-rpm

[94] Web GUI の LAN マップの機器詳細ビューで SFP ポートのリンク状態が正しく表示されないバグを修正した。

[95] Web GUI の LAN マップのヘルプで誤記を修正した。

[96] Web GUI のかんたん設定の[プロバイダー接続]で、プロバイダー接続設定を削除するときに発生する以下のバグを修正した。

- 削除するインターフェースが適用している NAT ディスクリプターが、他のインターフェースに設定されていたとしても、その NAT ディスクリプターが削除されてしまうバグを修正した。
- プロバイダー接続設定時に自動で設定される NAT ディスクリプターのみ削除され、それ以外の番号の NAT ディスクリプターをインターフェースに適用していたとしても削除されないバグを修正した。

[97] Web GUI の詳細設定の[セキュリティ]-[IP フィルター]で、プロバイダー接続の設定名に「¥」が含まれる場合、インターフェースの一覧が表示されないバグを修正した。

[98] Web GUI のかんたん設定の[プロバイダー接続]で、プロバイダー接続のユーザーID と接続パスワードが全角文字列で設定されていると、プロバイダー情報の設定ページが開かなかったり、文字化けしたりするバグを修正した。

[99] Web GUI の以下のページから設定を削除するとき、不要になった ip keepalive コマンドと ip filter コマンドが削除されないバグを修正した。

- かんたん設定の[プロバイダー接続]
- かんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]

[100] Web GUI のかんたん設定の[VPN]の各トップページで、トンネルを設定可能上限数まで設定していても、「新規」ボタンを押してしまうことがあるバグを修正した。

[101] Web GUI のかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で、IPIP の設定ページに「戻る」ボタンで遷移したとき、インターフェース情報が表示されないことがあるバグを修正した。

[102] Web GUI のかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]で IPIP の設定を行ったとき、IPIP トンネルを使用するインターフェースに NAT が適用されていない場合であっても、ローカルエンドポイントアドレスに LAN1 アドレスが登録され、IPIP トンネルによる拠点間通信ができないバグを修正した。

Rev. 14. 01. 11 以降でのみ発生する。

[103] Web GUI のかんたん設定の[VPN]-[拠点間接続]の設定ページで、経路数が最大設定可能経路数(100)を超えていても、エラーメッセージが表示されないバグを修正した。

[104] Web GUI のかんたん設定の[ネットボランチ DNS]で、ホストアドレスの設定を削除するとき、ホストアドレスの登録対象になっているインターフェースがリンクダウンしていると削除に失敗する仕様であるが、DHCP でアドレスを取得しているインターフェースの場合は、削除失敗のエラーメッセージが表示されないバグを修正した。

[105] Web GUI の詳細設定の[NAT]で、ポート番号に「ftp」が指定された静的 IP マスカレードの設定を含む NAT ディスクリプターに対して以下の操作を行ったときに、静的 IP フィ

ルターの設定が連動して削除されないバグを修正した。

- [NAT]のトップページで NAT ディスクリプターを削除する。
- [NAT]-[NAT ディスクリプターの設定]で、ポート番号に「ftp」が指定された静的 IP マスカレードの設定を削除する。
- [NAT]-[インターフェースへの適用の設定]で、インターフェースから適用を外す。

[106] Web GUI の詳細設定の[IP フィルター]を表示すると、ブラウザでメモリーリークが発生するバグを修正した。

[107] Web GUI の詳細設定の[セキュリティ]-[IP フィルター]で送信元情報や宛先情報に設定される IP アドレス長が非常に長いときに正しく表示されなかったり、意図した設定ができなかったりするバグを修正した。

[108] Web GUI の詳細設定の[IP フィルター]と[NAT]で、インターフェースの一覧の種別が以下のように表示されるバグを修正した。

- 「L2TP/IPsec」のとき、「PPTP」と表示される。
- 「IPUDP」のとき、何も表示されない。

■更新履歴

Jun. 2017, Rev. 14.01.20 リリース

以上